

令和5年度 第2回下野市生涯学習推進協議会 議事録

審議会等名 令和5年度第2回下野市生涯学習推進協議会
日 時 令和5年7月11日（火）午前10時から午前11時30分まで
会 場 国分寺公民館 1階101会議室
出席者 鈴木健一会長、榆木久美子副会長、田澤孝一委員、石川知子委員、上野文夫委員、
下山千恵子委員、大垣玉枝委員、菊地孝宏委員
【欠席】梅山博行委員、松本文男委員
市側出席者 生涯学習文化課 根本宣明課長、橋本幸昌主幹、大塚隆邦主査、山中裕貴主査

- ・公開・非公開の別 (公開 一部公開 非公開)
- ・傍聴人 なし
- ・報道機関 なし
- ・議事録（概要）作成年月日 令和5年10月10日（火）

【協議事項等】

1. 開会（橋本主幹）
2. 会長挨拶（鈴木会長）

（鈴木会長）本日の協議では、いよいよ来年度事業への提言を議決するという1つの目標を達成することとなる。市では、第三次下野市生涯学習推進計画という5か年の生涯学習に関する方針と、毎年度の各種事業をとりまとめた実施計画を作成しているが、年次方針は作成していない。ところで、私が所属する自治会で自治公民館を運営しているが、現館長が非常に熱心で、地域包括支援センターと連携したフレイル防止のための体操教室や、小金井交番による特殊詐欺についての講話などの自主的な取り組みを始めた。これらの取り組みのように、以前大垣委員から提案があったような、高齢者がより身近な学ぶ場所をつくること、また、積極的に自治公民館のような自主事業に取り組んでいる団体等と連携することで、生涯学習の目的を達成できるのではないかと考えられる。一方、参加者を多く集めることが課題だという面もあるが、より大切なことは、その事業を必要としている方や必要性のありそうな方に届けることであり、班回覧だけでなく、対象者と直接面会した際に積極的に勧めるなどのアプローチが必要ではないかということであった。生涯学習の大きな進め方として、自治公民館との関係は重要かと感じる。本日は、提言の議決をしてまいりたいので、どうぞよろしくお願いいたします。

3. 議事

（1）令和6年度事業への提言について

（橋本主幹）これより議事の進行は、下野市生涯学習推進協議会設置要綱第6条第1項に基づき、鈴木会長にお願いする。

（鈴木会長）議事時間については11時を目途に区切りたいと考えるが、よろしいか。

<委員了承>

それでは、事務局より説明を求める。

(事務局) 資料1に基づいて説明。

(鈴木会長) 3年前から提言という形式を始め、今回で3回目となる。市生涯学習推進計画の策定にあたっては、本部長である市長から協議会へ諮問され、答申するという形式である。年度ごとでは、諮問答申という形式でなく、年次ごとに作成する実施計画の実績報告があり、その報告に対し協議会で協議し意見を言うという形で、言いつばなしになっていた。そこで、もう一步踏み込んだ形として、政策提言という形を始めた。初回は当時の課長を始め事務局と私とで、たたき台の検討を進め、協議会に意見を求めた。2回目、3回目は、委員からの意見を加えるなどしている。あくまで提言なので、必ずしも行政施策に盛り込むかはわからないが、本提言には、各関係団体の代表である委員からの意見を反映しており、市民ニーズをくみ取っているという前提で、推進本部の決定をできるだけ誘導していくというねらいがある。今回については、正直、少し盛り込みすぎた感はあるが、委員の発言はできる限り盛り込みたいとの事務局の意欲もあるので、これが1つの着地点でもあるだろう。それでは、事前意見のあった田澤委員より一言発言をお願いしたい。

(田澤委員) 諮問答申は、5年に1回の推進計画に関する協議の際で、本提言は自主的に作成していること理解した。また、各種団体の代表から選出された委員が協議していることから、細かい点も含め、色々な角度から意見を出しておかないと、見落としてしまうこともあるので、本提言のように明確にすることは良い。案で示された量でも良いのではないかと思う。

(鈴木会長) ありがとうございます。他委員から意見いただきたい。上野委員お願いしたい。

(上野委員) 公民館ではWi-Fi整備が徐々に進んできているものの、暑いから図書館行こうと思うが、公民館に行こうとは思ってもらえていない。また、生涯学習センターは敷居が高い。しかし、節約志向が出てきているので、石川委員から意見のように、工夫次第で今後は公民館に行こうか、と思ってくれるのではないか。公運審でも取り込んでいきたい。私自身は、コミュニティセンターで毎週水曜日の午前中に開催される高齢者カフェ(サロン)に携わっている。市社協と連携し、高齢者の健康維持や居場所づくりを行っている。

(大垣委員) 詳細を聴きたい。

(上野委員) 始めは、「最新医学情報による健康教室」という少し堅い名称で企画した。また、集まる、しゃべる、運動する、地域を学ぶ、をテーマに企画した。毎週開催しているので、飽きないように、ダンスやペットボトル体操、紅葉散歩など変化を持たせた企画を取り入れている。毎回10~15人参加する。当初のメンバーは18名で、他の方を連れてきても良いこととしている。高齢福祉課から口腔に関する講話や、鈴木会長から特別講話、松本委員から音楽演奏などもお願いした。1年で延べ500人の参加があった。

(鈴木会長) 皆さん非常に熱心に聴いてくれた。まとめ役は大変と思う。

(石川委員) どのように運営しているのか。

(上野委員) 「学校」なので「生徒会」がある。

(鈴木会長) 地域のまとめ役をつなぐことは、生涯学習において人との関係でもあるので重要なこ

とである。ところで、市民活動センターやコミュニティセンターは、生涯学習文化課所管ではなく市長部局の所管だと思うが、広い意味で生涯学習機関と言えるので、連携して取り組んでいただきたい。

(菊地委員) 事務的な話であるが、提言書の一部の箇所が、「取り組み」でなく「取組」に統一されていないので修正いただきたい。

(事務局) 指摘箇所について「取組」に修正したい。

(菊地委員) 「老いの食育」とはどのような意味か。「食育」はわかるが、「老いの食育」という耳慣れない言葉で表現されているので確認したい。

(石川委員) 介護予防を目的とし、食が細くなる、また、食事を作ることも大変になる年齢層を対象としたものかと思う。

(鈴木会長) 前回の意見で出た造語的な表現で、高齢者向けの食育ということの意味している。

(菊地委員) 出前講座の具体例、利用状況はどうか。また、自治公民館にも出張可能か。

(事務局) 生涯学習情報誌エールの巻末に、まちづくりリクエスト講座と称して掲載している。自治公民館やコミュニティセンターへも出張も可能である。活用実績については、多彩なメニューに比べ低調である。最近は防災関連が主である。

(鈴木会長) ごみ問題に関する出前講座を活用したことがある。また、出前講座を活用して自主講座を組んでいる団体もあるようだ。

(上野委員) エールに掲載されているまちづくりリクエスト講座には、市職員を派遣するものが一覧となっているが、生涯学習ボランティアバンクに登録された民間ボランティアが講師となるものは掲載されていない。公民館やリクエスト講座を利用する方は、主にエールを読んで申込む。

(鈴木会長) 生涯学習ボランティアバンクを活用して講座を開催したという実績は少ないと聞く。ボランティアバンクから発信したらどうかと提案したことがある。以前、上野委員が発言したように、市内には専門技術など持つ方が多くいる。

(上野委員) リクエスト講座とタイアップすると良いのではないか。生涯学習情報センターの情報発信媒体はあるのか。各戸配布しているのか。

(石川委員) 冊子はなく、各戸配布もない。

(上野委員) エールは各戸配布だから見る。生涯学習センターにあっても、「つなぐ」仕事をしている人以外は見ない。広報しもつけかエールを見て情報収集している人は沢山いる。やった感はあるが、ラジオの効果は限定的と思う。

(菊地委員) 下野市の市民活動センターに愛称はあるか。栃木市は「くらら」、小山市は「おやま〜る」、壬生町には「みぶりん」がある。

(石川委員) 他市町では、公設後すぐに指定管理へ移行しているが、下野市はない。

(菊地委員) 市民活動センターはボランティア活動をしたときの中心的な窓口を担うものと思っている。

(鈴木会長) 本市の市民活動センターでは、活動PRに役立つパネルの作り方講座などを開いているようだ。

(石川委員) 先週の社会教育委員会議でも、生涯学習情報センターと市民活動センターの役割が重複しているのでは、わかりづらいとの指摘があった。ゆくゆくは一本化していくことが重要と考える。

(根本課長) ボランティアバンクについては、現状では、生涯学習情報センター所管、市民活動センター所管、市社会福祉協議会・ボランティアセンター所管のボランティアバンクに分かれている。将来的には、市民活動センターへ集約されるものと思う。なお、市民活動センター1階交流スペースにはボランティア団体の情報が配架されている。

(菊地委員) 第一線を退いた高齢者のボランティア活動ニーズや意欲は非常に高い。ボランティア活動のワンストップ窓口・拠点が求められているので検討いただきたい。

(鈴木会長) そのほか、事前意見のあった大垣委員から発言をお願いしたい。

(大垣委員) 今回の提言に、避難所の運営に関して人権配慮の視点が求められるという記述があるが、例えば発達障害に関して、感情コントロールの苦手な子どもに対応した個室を用意する、心のケアなどの具体的な文言を盛り込むよう、今後の検討課題としていただきたい。

(鈴木会長) さらなる具体策につながるよう生涯学習の観点から推進してほしい、とのことである。

(鈴木会長) それでは、令和6年度事業への提言についてこの案で進めたいと思う。議決したいと思う。この提言案でよろしいという委員は挙手いただきたい。

<挙手全員>

(鈴木会長) ありがとうございます。委員全員一致の議決ができた。この内容で提言を行ってきたい。以上で、議事を終了する。進行を事務局へお返しする。

4. その他

(橋本主幹) 次第「その他」について、事務局より説明願う。

(事務局) 今回議決いただいた提言については、提言書としてまとめ、7月25日(火)午後3時から市長面会で提出したい。協議会代表として鈴木会長に出席いただく。また、次回の協議会は、来年3月中下旬に開催する予定である。

5. 閉会